

農の広場

登米市農業委員会だより

第25号

平成30年10月



農業の未来は、無限大という思いで

さとう ひでひこ
豊里町 佐藤 瑛彦さん
(右から1人目)

佐藤農場の瑛彦さんは、32歳の青年農業士です。肉牛350頭の受託契約による飼育と水稲15ヘクタールを作付けしています。さらに昨年からは、大手食品会社のカルビーと提携して3.5ヘクタールの畑で質の良いジャガイモを作っています。

これからは、みんなで楽しく生産性が上がる農業にしていかなければ若い後継者が育たないという考えで、現在3名の若い従業員とパートで頑張っています。

もうすぐ待望のお子さんが誕生するそうです。

担当：豊澤委員



農地利用状況調査

7月10日に農地利用状況調査研修会が開催され、併せて調査員89人に委嘱状が交付されました。

今年は、利用状況の判定の基準について特に重点的に説明があり、参加者は熱心に聞いていました。

農地利用状況調査は、農地が適正で有効な利用がされているかについて調査するもので、このデータを活用して情報提供や意向確認などを行い、農地の耕作条件をさらに良くしていくための大切な調査ですのでご協力をお願いします。

担当：尾張委員



農業者等との意見交換会



7月13日、中田農村環境改善センターにおいて、一般農業者と関係機関の職員の出席を頂き「農業所得の向上と後継者の育成」「鳥獣被害対策」をテーマに開催されました。

「農業所得のないところに後継者は育たない」農地集積を進めるには「農業委員会の支援が必要」また、鳥獣被害対策は「個人の対応では限界があり行政の支援が必要である」など日頃抱えている地域農業の課題が多く出されました。

意見交換会で出された意見は、市長への意見書や今後の農業委員会活動に反映してまいります。

担当：阿部委員

農業者年金加入推進研修会

8月6日に農業者年金加入推進研修会が開催されました。

農業者の老後の備えとしてお勧めするもので、皆さんに加入していただくための特徴について説明がありました。

- 1.自分が積み立てた保険料と、その運用益により将来受け取る年金額が決まります（積立方式）。
- 2.終身年金（生涯受給）で、万が一80歳前に亡くなっても、80歳まで受け取る予定の年金が死亡一時金としてご遺族に支給されます。
- 3.保険料は全額が社会保険控除、運用益も非課税、受け取る年金も公的年金等控除が適用されます。
- 4.保険料は月額2万円から6万7千円までの範囲で、千円単位で決めることができます（いつでも変更可）。
- 5.認定農業者で青色申告者など一定の要件を満たす担い手は、保険料の国庫補助があります。

※気軽にお近くの農業委員又は農業委員会事務局、JAへお問い合わせください。

担当：尾張委員

農業者年金に加入して老後生活を安心サポートしましょう

- 政策支援加入で保険料の国庫補助が受けられます（要件があります）。
- 確定拠出型のため安心な年金制度となっています。
- 保険料は全額が社会保険料控除され節税になります。
- ライフステージに応じて保険料を変更することができます。

「土の館」で土作り研修会

8月23日、北海道上富良野の土の博物館「土の館」にて農業委員会委員研修会を行いました。

土の館は「未来技術遺産、機械遺産、北海道遺産」と合わせて3つの遺産に認定、登録されている日本唯一の土の博物館です。

「気候変動に負けない米づくり」をテーマに説明を受け、米の食味向上、高温障害対策になる方法として「粗く深く耕し、稲わらを土と混和し、乾かす、その過程で微生物、ミミズ等がそれらを分解し腐植を土中にたくさん増やし、健康で丈夫な根を育てることが良い作物を育て続ける一番のポイント!」と語る土の館の田村館長でした。

改めて、粗く深く耕す意義を感じさせられる、すばらしい研修会でした。

担当:柴崎委員



「東北・北海道農業活性化フォーラム」



東北・北海道農業活性化フォーラムが8月24日、北海道札幌市で開催され、各地から1200名を超える農業委員、農地利用最適化推進委員が参加しました。

基調講演では、北海道大学の野口教授がICT(情報通信技術)やロボット技術を用いたスマート農業について講演されました。夏場などは非常に重労働となる畦畔の草刈り作業を行う自動ロボット農機が紹介されると、会場からは感嘆の声が上がっていました。自動で作業をするトラクターや田植え機が十分に活躍するためには、それに合わせた基盤整備や農地の集約が重要であるとの話があり、各委員はそれぞれうなずきながら考えを深めているようでした。

担当:櫻井委員



Q：農業委員会の委員はどんな仕事をしているの？

A：登米市農業委員会は法律の改正に伴い、昨年7月より市長から任命された農業委員24名と農業委員会が委嘱した30名の農地利用最適化推進委員（以下「推進委員」という）の計54名の委員がいます。

農業委員は市全体に関すること、推進委員は担当地区（市内を25地区に分割）における現場活動を中心に業務を行っています。

委員相互の情報共有等を図るため、全委員による農地利用最適化推進連携会議を毎月開催しています。

農業委員の主な仕事	推進委員の主な仕事
<ul style="list-style-type: none"> ●総会での議案審議等 ●農業委員会だよりの編集 ●農業者年金の加入推進 ●関係行政機関への意見の提出 ●農家相談 	<ul style="list-style-type: none"> ●担い手への農地の集積・集約化 ●遊休農地の発生防止・解消対策 ●新規就農・新規参入の促進 ●農地パトロール ●農家相談

農地・農業者年金等に関するご相談は、登米市農業委員会へお問い合わせ下さい。
登米市中田庁舎1階 ☎0220-34-2317 メールアドレス noui@city.tome.miyagi.jp

農業者年金で孫たちと楽しく



中田町 佐々木 ひとし 仁司さん

中田町黒沼の佐々木仁司さんに農業者年金についてお話を伺いました。

「農業者年金には30代で加入し、長年掛け続けることはとても大変でした。」

農業経営を息子に引き継ぎ第一線を退いた今では、子供たちや孫たちと楽しく暮らすために欠かせないものです。

「75歳、まだまだ現役、これから10年、20年、元気で頑張るよ！」と田んぼのくろ草刈りに精を出す仁司さん、健康に気をつけて頑張ってください。

担当：鈴木委員

充実した毎日

株式会社櫻井農場に入社5年目になる後藤克哉さんは、現在農場長として社員の指導や出荷販売の管理と忙しい日々を送りながらも「充実した毎日」と話していました。

以前は、農業はのんびりとしたイメージだったけれど、仕事をしていく中で企業として成り立つという事を認識したそうです。

「夢は作業をしながらつかみたい！」お子さんも生まれ、ますます気合が入る後藤農場長です。

地元スケートボードチームの代表で子供たちの指導もしているそうです。

担当：佐々木委員



中田町 後藤 ことう かつや 克哉さん

購読しませんか



全国農業新聞は地域農業者の代表機関である農業委員会のネットワークが発行する週刊の農業総合専門誌です。

週刊 金曜日発行 (原則月4回)
月700円、年8,400円 (消費税込)

申し込み・お問い合わせ先
登米市農業委員会事務局 ☎0220(34)2317

編集委員

- | | |
|------|---------|
| 委員長 | 尾張 勝 |
| 副委員長 | 佐々木 まき子 |
| 委員 | 阿部 静男 |
| | 岩淵 勉 |
| | 櫻井 淵 |
| | 柴崎 利光 |
| | 鈴木 専一 |
| | 豊澤 啓司 |

今年の夏は、七月に晴天・猛暑が続く梅雨も例年より早く明けました。八月に入っても猛暑が続く、乳白米等の高温障害の発生が心配されるようです。

ともあれ、収穫の秋を迎え忙しい日々を送っている事と思います。さて、毎年実施している農地利用状況調査が先月終了しました。調査結果に基づき該当する方には後日、農業委員会から農地利用意向調査の連絡をいたしますので、お近くの農業委員 推進委員または、農業委員会事務局までお気軽にご相談下さい。これからも大事な農業資源である農地を適切に管理し、農業を発展させていきたいと思います。

岩淵 勉

編集後記